

平成27年度学校評価

兵庫県立播磨農業高等学校

学校教育目標

- 1 農業教育を中心としたあらゆる教育活動をとおり、志を持ち、たくましく生きる力と夢にチャレンジする態度と豊かな心を育む。
- 2 いのちあるものを育て、汗と土にまみれる体験を重視した教育活動をとおり、人権感覚、責任感、勤労観、職業観を育む。
- 3 農業の生産・経営に関する基礎的知識・技術の習得及びその応用的・実践的能力と態度を育む。
- 4 寄宿舎教育をとおり、自律心、協調性、責任感を育む。

学校経営の重点

- 1 農業経営者育成の推進
- 2 自主性・実践力の育成
- 3 情操の涵養・たくましく生きる力の育成
- 4 保護者・地域社会・農業関係機関等との連携
- 5 安全教育の推進
- 6 環境の整備

学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 評価に際して数字として出てくる部分(表彰者や大会結果、資格取得等)などは当然好評価できるが、影の部分も評議するべきである。
- 保護者アンケートの回収率を上げるためにもPTAとも連携して欲しい。

総合的な学校関係者評価

- 教育面、社会貢献面、部活動面などあらゆる側面で高く評価できる。来年度も継続を希望する。
- 全般によく教育し、指導されていると感じる。今後、益々の本校の活躍を願う。
- アンケート結果などを見ても、各項目ともに、おおむね高い評価が得られており、安心できる。ただもう少し保護者が来校できる機会があってもいいと思う。保護者・教職員が子供たちの指導に対して共通認識をもって取り組むきっかけ作りとしても。

自己評価結果(A:達成している B:おおむね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況(上段)・改善の方策(下段)	学校関係者評価評価委員会意見
学校運営全般	学校の教育目標達成に向け、協働意識の高揚とPDCAサイクルの定着を図る。 学校ホームページ等様々な広報活動をとおり、学校理解を深める活動を展開するとともに地域との連携・共生に意欲的に取り組む。	A	各部・学年・学科ごとの重点目標について、中間・年間まとめを作成し、当該年度の課題と、次年度への課題をそれぞれが確認したうえで明示。学校ホームページや学年通信、学校だよりで学校行事などについて随時報告を行ったり、地域のイベント活動への参加や報道機関への情報発信を行い、保護者をはじめ地域への学校理解や地域連携を図った。 今後も、学校ホームページをはじめ、より広範囲な情報発信を始め、地域や県下の中学校に対して本校生徒の活動を広く知ってもらおうと共に、地域に対しても本校の学校行事等の積極的な参加を促す。	■本校生徒の活動・活躍は新聞記事でもよく目にする。今後もどんどん情報発信をおこなっていただくことを希望します。 ■広報の手段として、より積極的な方法であるフェイスブック等の活用も考えてはいかでしょうか。保護者・卒業生も、もちろん在校生も気軽に利用してもらえそうです。 ■農業高校としての本校の取組は、新聞、ネット等のメディアを介して十二分に情報発信をされており、注目度は高い。また地域住民の参加交流も盛んである。 ■ホームページや播磨だより等、情報発信が充実してきた。学校の様子を知ることができるので、安心感がある。
生徒指導	生徒の理解に基づき、教職員全員が生徒一人ひとりを伸ばす生徒指導を展開する。 基本的な生活習慣や規範意識を定着させ、自他ともに大切に学校生活に取り組ませる。	B	生徒の内面理解を図るとともに、生徒一人一人に適した生徒指導に努めた。キャンパスカウンセラーや外部講師による研修会を実施し、各教職員の資質向上及び指導法の共有化を図った。 生徒指導の方針やねらいを生徒、保護者及び地域社会に対して今後も継続的に周知する。職員の共通理解を深め、生徒の内面理解に努めるとともに、挨拶・礼儀・規範意識などの社会性の基礎・基本をしっかりと身につけさせ、生徒の自尊感情の育成や規範意識の向上に努める。生命の尊重を基礎として、相手の立場に立った、もの考え方のできる生徒の育成に努めた。	■生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会人となった時、即戦力となる人材育成に努めていただきたい。 ■生徒達の深層心理に向き合うべく、外部カウンセラーを活用し、指導されていることは、来年度も継続して欲しい。また先生方の生徒に対する観察力を深めて、一人でも多くの生徒が無事卒業されることを望む。 ■生徒指導の方針について、保護者と教員との共通認識が低いように感じる。時代の移り変わりでスマートフォン等も取り扱いが変わるだろう。保護者への周知をお願いする。
学習指導	教材の精選と指導の工夫を行い、生徒の個に応じた教育の充実を図る。 新教育課程に向けた実施計画を進める。	B	1年次を中心に国語、数学、理科、英語では少人数制を実施し、更に数学では習熟度別クラス編成をすることで基礎基本の定着を図っている。同時に専門教科(農業)においても少人数授業を実施することで、きめ細かい授業を行っている。また数学・英語では放課後の補習を行い、検定や受験に向けての学習に取り組ませている。 専門に関する授業へのより深い理解をさせるための授業形態、及び各学年における教育課程の見直し、また2年次、3年次での選択授業の在り方について、継続した改善の取り組みを行うと共に、情報機器を用いた効果的な授業のあり方についても検討していく。	■学習面では、先生方の熱い指導に生徒たちが真剣に取り組んでいるように思われる。 ■すべての子供たちが入学当初の目標や意識のまま、3年間過ごすとは限らず、目標進路が状況(学業成績や家庭事情)によって変わることも多々あると思われるので、そのあたりのフォローを見極めてあげて欲しい。 ■少人数制の授業については良いと思う。検定等の取組は、幅広い生徒が受験できるように配慮して欲しい。
進路指導	個に応じた進路実現に向け、情報の提供・相談体制を作る。 キャリア教育の推進を図り、職業観・勤労観を育成する。	B	教育活動全般をとおり、キャリア教育の推進を図った。3年生に対しては多様な希望を持つ生徒の進路実現の為に、進路ガイダンスを8月までに集中的に実施すると共にハローワークとも連携を取った。1・2年生に対しては進路意識の向上、とりわけ農業分野への関心を高めるために、大学出張授業や進路ガイダンスの充実を図った。 農業系の進路を選択する生徒を増やすために、各学年の進路指導計画に加えて、個別指導の充実をより図る必要がある。自営基盤を持つ生徒の減少、非農家の生徒の増加という現状を踏まえ、大学や大学校への進学をすることで就農への道筋をつける必要がある。そのためには1年次からのキャリア教育の充実をはかりたい。	■進路については学年がすすむにつれて将来を考えているようであるが、男子に比べて女子は今ひとつ具体的な考えを持っていないように思う。 ■卒業後の進路に対する取組は早めに対処されていると感じます。就労感の植えつけや大学生活を肌で感じるための取組もされていると思う。農業離れの時代で就農者は少数精鋭となり、今後は世界に通用する農業者の人材教育の観点からも個別指導を充実して欲しい。 ■進路ガイダンスの充実は今後考える機会になるので、多方面で実施されることを希望する。今年度、農業系の進路選択者が増えたことは良いと思う。またインターンシップを通して社会を垣間見ることがとても良いことだ。
農業教育	農業教育をとおり、生命を尊重する心と安全第一を優先とする意識を向上させる。 各種資格・検定試験や各種大会等に参加、挑戦させることにより、生徒一人ひとりの能力を高め、自信を持たせることにより、進路実現につなげる。	A	時間内総合実習において、「農業実習の心得」を全員で読み上げ、安全教育に努めた。 栽培飼育管理実習や解体(鶏・豚・豚肉)実習、畜産祭や収穫感謝祭などを通して、「命の大切さ」を実感させる教育を推進した。 本年度、兵庫県学校農業クラブ連盟大会事務局として、運営や各種競技に積極的に参加した。 各種資格取得、検定試験合格をめざす指導を行った結果、学年が上がるにつれて進路を意識した取組が行われた。次年度は、入学時生徒に意識づけを行い、早い段階で進路実現に向けたキャリア教育の充実を努めたい。 本校の特色を活かし、地域と連携した事業を行ったが、一部の生徒に限られたという反省から、次年度は授業の中で実施し、更に事前指導をしっかりと行うことで、地域に貢献する意識を高めたい。	■農業教育で栽培飼育実習をとおり生命の尊さをしっかりと身につけていると保護者・先生方は実感されていると思う。生徒たちは自分自身の成長をあまり実感していないようです。 ■本校が県内で中心的役割を果たされていることは大変素晴らしいと感じる。資格・検定等の取得意識を高めて、多くの生徒たちがチャレンジしているのは素晴らしい。また多種多様な大会に参加することで、好成績をあげるなど、専門分野での取組は目を見張るものがある。 ■生きた動植物や自然と真摯に向き合うことで、思春期の子供たちにとって何にも替えがたい情操教育になっている。農業高校の素晴らしいところであると感じる。
特別活動	本校の教育活動で体得したものを、勤労やボランティア活動(障がい者支援、環境保全)等で実践させる。 地域との連携を深め、交流活動を通して社会性や集団参加の意識を高める。	B	公募による呼びかけでボランティアに多くの生徒が参加した。地域からの要請も増えた。地域と連携した交流活動を通して豊かな人間性を培う。 勤労体験やボランティア活動への参加機会を更に増やした。ボランティア活動を通して奉仕の精神を養うとともに地域との交流に努めた。	■本校の生徒たちは地域社会に大変貢献していると思う。 ■震災以来、ボランティアという言葉がとりざたされていることが多くなったが、ボランティアに対する心構えなどの指導をお願いする。 ■特別活動の評価に学年差があるが、学年が上がるごとに評価が上がっているのは、子供たちの視野が広がっている証拠だと思う。
寄宿舎教育	寮の日課を確実に果たし、規律ある寮生活の中で自律性・協調性・責任感などの能力を体得させる。 異年齢集団の構築・成熟をめざし、相互の人間関係の深化を図るとともに、玉丘寮に誇りを持たせ、自己の役割を果たさせる。	A	寮訓「誠和・自律・礼儀」を規範として、その実践に努めた。また人権に配慮した指導を行うと共に、礼節を重んじ、寮生の自主・自律性を育む取組を行った。更に日々寮生の体調管理とともに心のケアに努めた。 継続的な生活指導を実施し、問題行動の未然防止に努めるとともに、寮内環境の整備に努め、寮生が生活しやすい潤いのある環境づくりに努めた。寮運営委員を主体として寮行事の充実を図り、相互の人間関係を深化させた。	■寮生活をとおり、生徒自身、保護者の方も成長を実感しておられる様である。寮生活は大変だと思うが、将来、社会人となった時、プラスになると思う。がんばって下さい。 ■早いうちから団体生活を経験しておくのは大変良いことだと思う。ただそれに対する問題が発生しないよう、先生方には生徒をよく見て頂きたい。 ■寮の行事やイベント等を生徒が中心となり進めることは、とてもいいと思う。普通科高校にはない寮生活、先生方もご苦労だと思いますが、生徒にとっては貴重な体験ができていると思う。